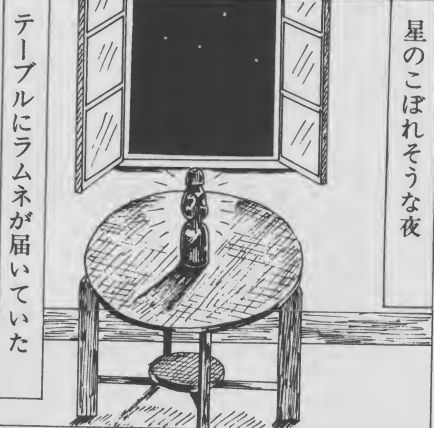
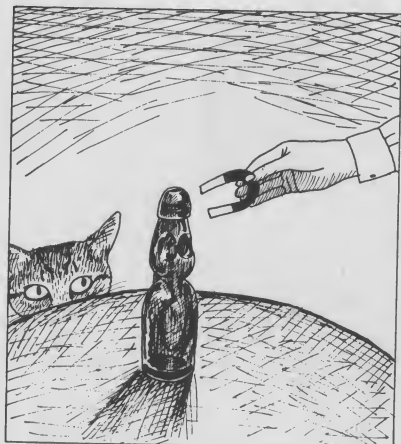
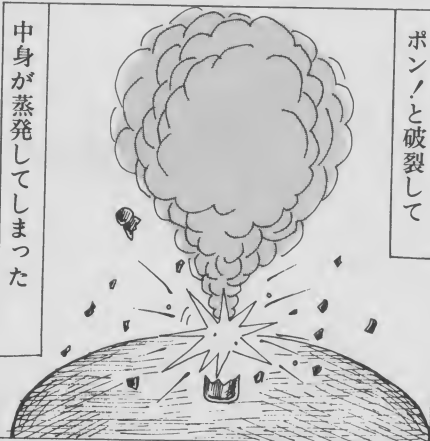
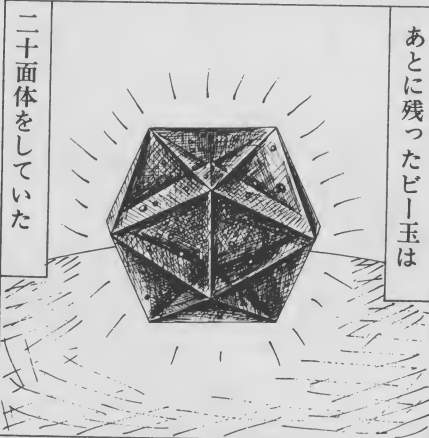
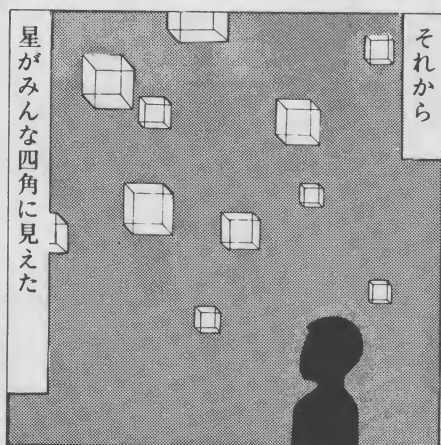
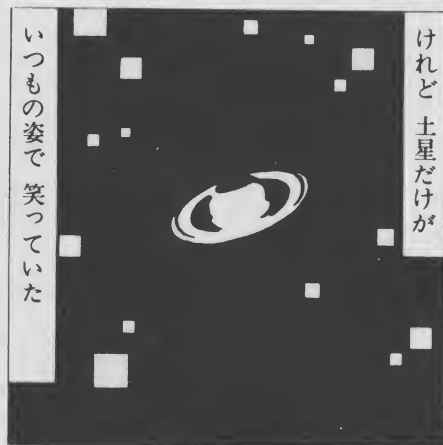
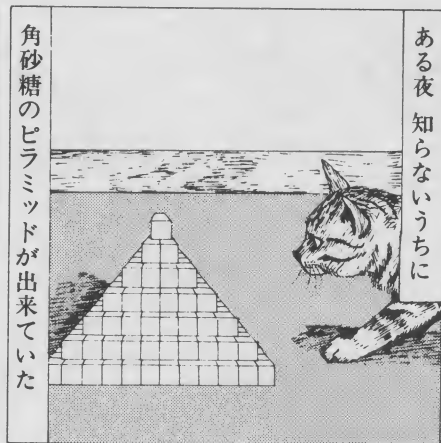
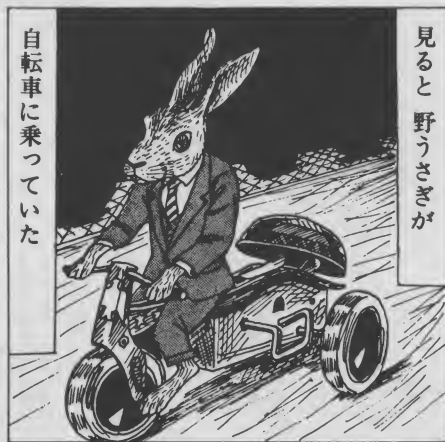
クシー君の発明

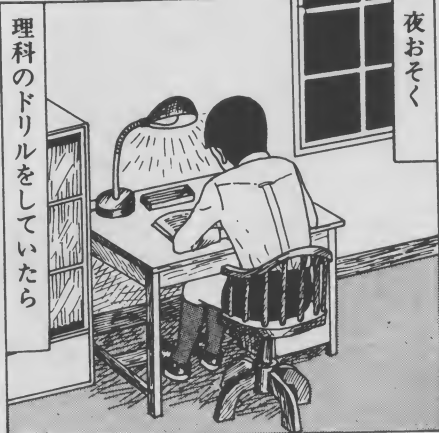
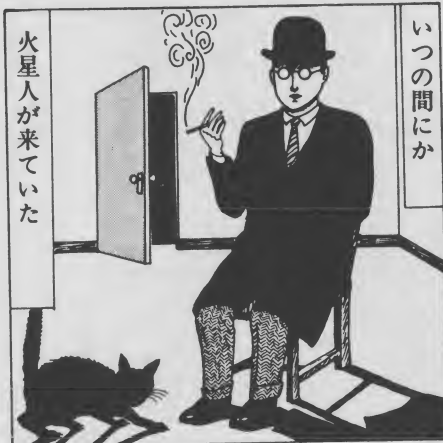
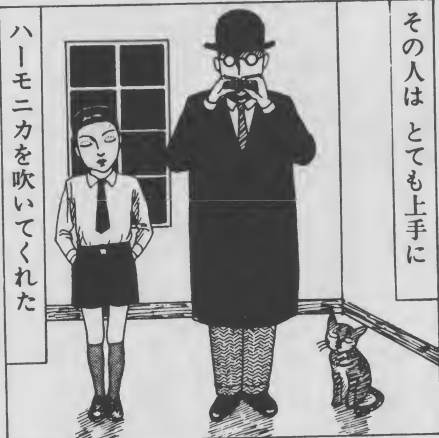
E・Nに

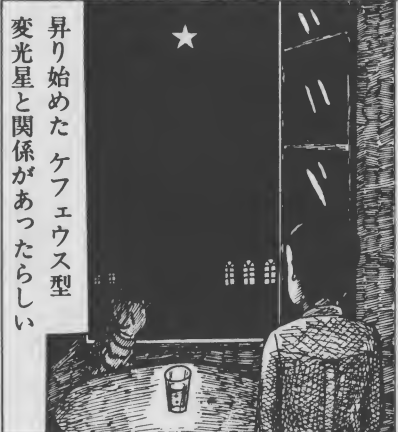
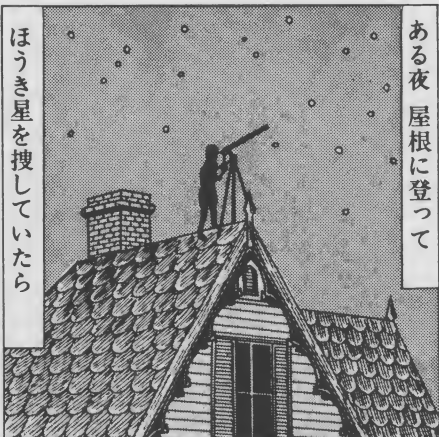
鴨沢祐仁

隕石

星のラムネ

星のこぼれそうな夜
テーブルにラムネが届いていた
怪しいので磁石を近づけたら
ポン！と破裂して
中身が蒸発してしまった
あとに残ったビー玉は
二十面体をしていた

A PRESENT FROM A CRESCENT

CUBELET SUGAR

月の休暇

新月の晩
クシー君が眠りかけたら
窓の外でベルが聴こえた
RRRRR
見ると 野うさぎが
自転車に乗っていた
クシー君も乗せてもらった

訪門者

夜おそく
理科のドリルをしていたら
いつの間にか
火星人が来ていた
その人は とても上手に
ハーモニカを吹いてくれた
その人がどうして火星人なのか
クシー君にも分っていない

停　電

真っ暗な晩　クシー君が
炭酸水を飲もうとしたら
急に停電！
闇の中で　炭酸水のコップが
ポーッと光ったり消えたりしていた
どうやらそれは　東の空に
昇り始めた　ケフェウス型
変光星と関係があったらしい

謎の天体

ある夜 屋根に登って
ほうき星を捜していたら
西の空に
いつまでも沈まない円い星を発見
なんだろうと考えてるうちに
夜が明けてしまった
E
L
L'

クシー君の発明

THE END 1974 12月25日